

地理 問題

[I] 次の地形図を見て下の問いに答えなさい。

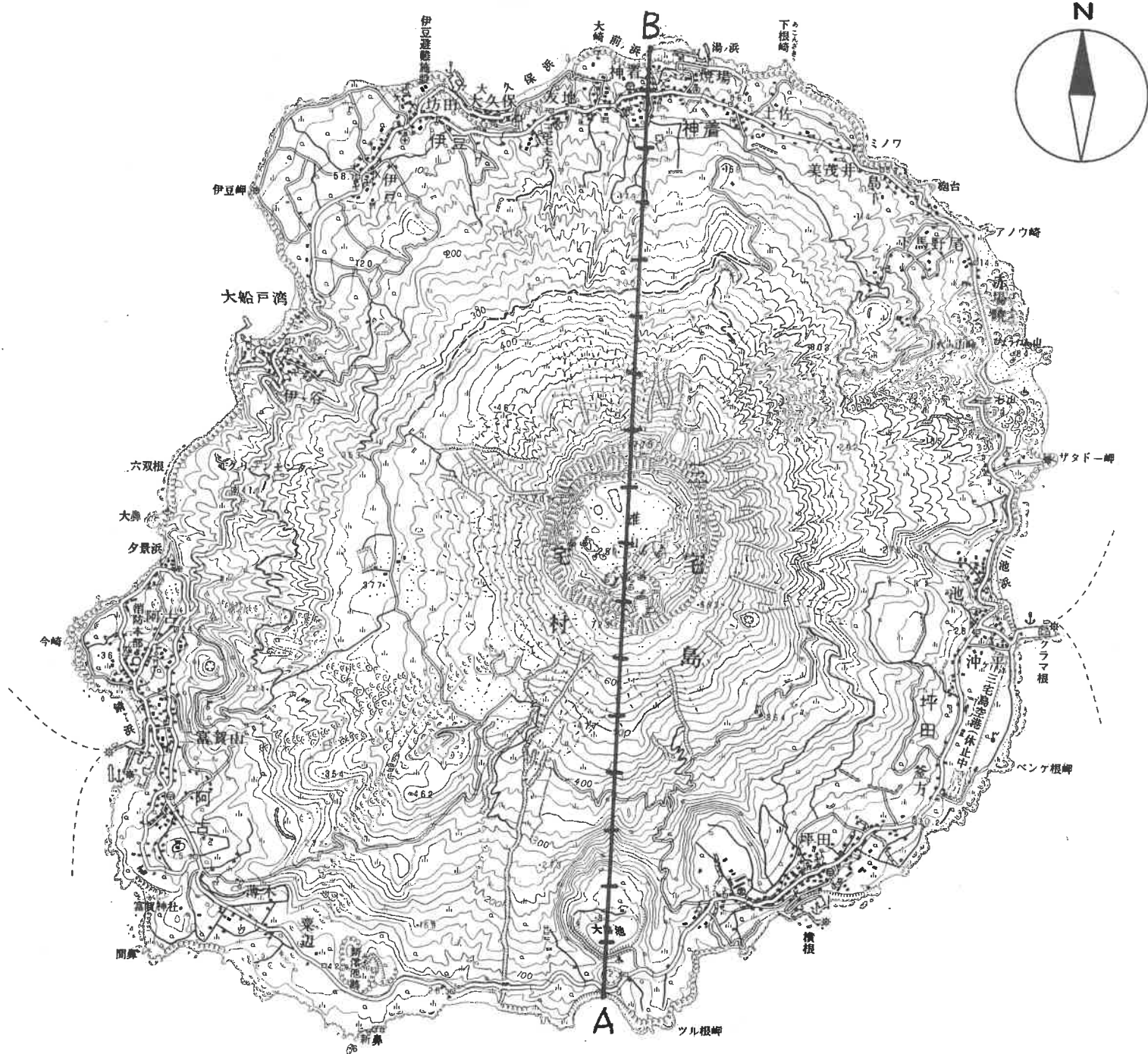
[設問1] 地形図から読み取れる以下の項目について答えよ。(この図は地形図の一部を等倍でコピーしたものである)

- (1) この地形図の縮尺を答えよ。
- (2) A-Bの距離は何Kmか答えよ。(註: 図上の一目盛は1cmである)

[設問2] A-Bの断面図を作成し、その地形的な特徴について説明せよ。

[設問3] 設問2の断面図も参考にしながら、この島の成因と地形的な特徴について説明せよ。

[設問4] 地図をよく読み取り、この島の平成17年当時の状況について説明せよ。



〔Ⅱ〕 中央アジアの自然環境に関する以下の文章を読んで下の問いに答えなさい。

中央アジアの地形は、(A) の地域から世界の尾根と呼ばれる (B) まで、きわめて起伏に富んでいる。巨大な山地列によって南アジアや (C) と隔てられているが、北西に位置する (D) や北の (E) との境界には明確な地形的境界はない。地質構造を概観すると、(F) 卓状地と (E) 卓状地からなる安定陸塊と新期・古期の造山帯 ① からなる。中央アジアには、広大な (G) や砂漠が存在し、その南部は (H) によって縁どられた乾燥地域が広がっている。乾燥の第1の要因は、(I) とその影響で寒冷前線が発達しないことであり、第2の要因は雨陰効果と (J) 効果である。カザフスタンとウズベキスタンの両共和国にまたがるアラル海では、1960 年以降、水位の低下が急速に生じており、環境、生態系、経済、および健康被害など、きわめて深刻な問題となっている。 ③

〔設問 1〕 空欄に入る最も適切な語句を以下の語群から選び、数字で回答欄に記入せよ。

(なお、同一の記号の空欄には、同一語句が入る)

語群：

1. 亜寒帯草原
2. 亜寒帯低気圧
3. アナトリア高原
4. 温帯高気圧
5. 温帯草原
6. 温帯低気圧
7. 海拔下
8. 海洋
9. 高度
10. 砂漠
11. 山岳地帯
12. シベリア
13. 大陸
14. チベット高原
15. 内陸
16. 西アジア
17. パミール高原
18. 東アジア
19. 盆地
20. ヨーロッパ
21. ロシア

〔設問 2〕 下線部①の古期造山帯として、以下から最も適切なものを一つえらんで、回答欄に記入せよ。

エルブルズ山脈 コーカサス山脈 テンシャン山脈 ヒマラヤ山脈 ヒンドゥークシュ山脈

〔設問 3〕 下線部②に関係し、テンシャン山脈とクンルン山脈にはさまれた地域についての以下の名称を答えよ。

- 1) この地域を示す盆地
- 2) この盆地に広がる砂漠
- 3) この砂漠を流れる代表的な河川 (一つ以上)

〔設問 4〕 下線部③について、その主な原因と、生じている問題について説明せよ。

地理 問題

〔Ⅲ〕 次の(1)～(3)で示す用語に関連して、以下の問いに答えなさい。

(1) ジオパーク

問1 「ジオパーク」がどのような場所であるのか説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

問2 日本には46地域が日本ジオパークとして認定を受けている(2022年1月時点)。このように、多くの地域でジオパークの認定を目指す動きが見られるが、各地の自治体がジオパークの認定を目指す理由について説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

(2) ベビーブーム

問3 「ベビーブーム」とはどのような現象であるのか説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

問4 日本には「第1次ベビーブーム世代」、「第2次ベビーブーム世代」との用語が存在する。それらに該当する具体的な世代について解説するとともに、それら世代の関係性について説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

問5 日本では「第3次ベビーブーム」は起こらなかったとされている。何故、「第3次ベビーブーム」は起こらなかったのか、経済情勢や社会的風潮を踏まえて、その理由を答えなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

(3) スプロール現象

問6 「スプロール現象」とはどのような現象であるのか、解説しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

問7 「スプロール現象」を防ぐためにどのような対応策が採られてきたのか、説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

地理 問題

[IV] 次の(1)～(2)で示す表に関連して、以下の問いに答えなさい。

(1)

表1 日本の在留外国人数および割合の変化

	1990年		2021年	
	人数(人)	割合	人数(人)	割合
A	150,339	14.0%	716,606	26.0%
韓国・朝鮮	687,940	64.0%	436,167	15.8%
B	6,233	0.6%	432,934	15.7%
フィリピン	49,092	4.6%	276,615	10.0%
C	56,429	5.2%	204,879	7.4%
D	447	0.0%	97,109	3.5%
インドネシア	3,623	0.3%	59,820	2.2%
米 国	38,364	3.6%	54,162	2.0%
台 湾	-	-	51,191	1.9%
タ イ	6,724	0.6%	50,324	1.8%
ベ ル	10,279	1.0%	48,291	1.7%
ミャンマー	1,221	0.1%	37,246	1.3%
イ ン ド	3,107	0.3%	36,058	1.3%
スリランカ	1,206	0.1%	28,986	1.0%
総 数	1,075,317	100.0%	2,760,635	100.0%

資料:外国人登録統計および在留外国人統計より作成

問1 空欄A～Dには中国、ネパール、ブラジル、ベトナムが当てはまる。それぞれに該当する国名を記しなさい。

問2 「韓国・朝鮮」が1990年から2021年にかけて大幅に人数を減らした理由を説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

問3 表1より、1990年から2021年にかけての日本の在留外国人の動向について説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。

(2)

表2 日本の小売業の主な業態別の変化

		事業所数	従業者数 (千人)	年間商品販売額 (億円)	売場面積 (千㎡)
1994年	合 計	1,499,948	7,384	143,325	121,624
	E	463	205	10,640	7,124
	F	1,804	272	9,336	11,394
	専 門 ス ー パ ー	9,354	366	10,427	11,290
	G	48,405	491	8,335	6,522
	専 門 店	930,143	3,917	61,018	48,222
2014年	中 心 店	427,099	1,644	32,579	26,417
	合 計	775,198	5,811	122,177	134,854
	E	195	67	4,923	4,762
	F	1,413	266	6,014	12,547
	専 門 ス ー パ ー	32,074	1,092	22,968	42,043
	G	35,096	538	6,480	4,335
2014年	専 門 店	430,158	2,087	43,158	29,647
	中 心 店	190,773	876	19,300	20,574

資料:各年の商業統計表より作成

注:衣・食・住いずれかの専門の商品の割合が90%以上が「専門店」、50%以上が「中心店」

問4 空欄E～Gにはコンビニエンスストア、総合スーパー、百貨店が当てはまる。それぞれに該当する業態を記しなさい。

問5 表2より、各項目の数値の変化(数値が増加した項目と減少した項目)に着目して、1994年から2014年にかけての日本の小売業の動向について説明しなさい。なお、解答欄内であれば、字数は問わない。